

第2回余野川ダムサブWG会議（2004.9.22開催）結果報告		2004.10.15 庶務発信
開催日時：	2004年9月22日（水）13：05～16：45	
場 所：	梅田センタービル 18階会議室H	
参加者数：	サブWGメンバー委員6名、サブWGメンバー外委員5名、河川管理者6名 一般傍聴者（マスコミ含む）38名	
<p>1. 審議の概要</p> <p>狭窄部上流の目標洪水の見直しについて</p> <p>河川管理者より当日配付された資料「猪名川狭窄部上流の浸水被害に対する目標洪水の見直し」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料には、主な4洪水の流域平均日雨量が記載されているが、今後はこの4つの日雨量をベースに狭窄部上流の目標洪水を選定することになるのか。目標洪水については、引き延ばし降雨ではなく、あくまでも実績降雨（既往最大）を対象降雨とするべきだ。 <ul style="list-style-type: none"> 4つの洪水だけではなく、昭和47年や平成元年といった大きな洪水も含めて、目標洪水の見直しを行っていく（河川管理者）。 <p>余野川ダム計画、およびダム代替案について</p> <p>河川管理者より資料1-1「余野川ダム代替案に係わる資料」、資料1-2「余野川ダム計画に関する調査検討 追加説明資料」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。</p> <p>ダム建設の是非（代替案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ダムWGは、ダム建設の是非について議論すべきだ。余野川ダムの場合は、一庫ダムの利水容量振替が銀橋上流の浸水被害の軽減のために有効なのかどうかについて、議論すべきだろう。 一庫ダムの嵩上げや遊水池等の複数のダム代替案を実施した複合案の検討は進んでいるのか。 <ul style="list-style-type: none"> 複合案についても今後も引き続き検討を行っていく（河川管理者）。 ダムは必要だと考えている。長い目で見れば、気候変動によって世界的に水が不足する時代がくるだろう。きれいな水に恵まれた日本では、貯められるところではできるだけ貯めておいたほうがよい。ダム建設技術の保存という観点からも、ダムはつくっておくべきだ。 <p>堤防強化と狭窄部開削について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1-2には、上流から逐次破堤した場合の浸水被害が示されているが、一度にこれだけ多くの破堤が発生するとは思えない。破堤による被害を累積したような印象を受ける。 <ul style="list-style-type: none"> 確かに上流から逐次破堤していく可能性は低い。今回の検討結果は、各所で破堤が発生した場合の浸水被害を網羅したもの。実際にこれだけの被害が出るというものではない。現在のところは、降雨と被害と効果を示しただけであり、この資料がダム建設が必要な理由だとは全く考えていない（河川管理者）。 今回の検討は、堤防強化後（浸透および浸食対策）を前提に、天端 - 余裕高で破堤するという条件で行った。必ずしも、天端 - 余裕高で破堤するということではない。今後、このパターン以外の検討結果についても示していく（河川管理者）。 資料1-2で示されている銀橋上流の浸水被害は、破堤による被害なのか。河道掘削によって流下能力を高めれば、銀橋上流の浸水被害は低減するのではないか。 <ul style="list-style-type: none"> 銀橋上流は堀込河道として扱っているので、破堤ではなく、越水による被害である。また、銀橋上流だけを河道掘削しても、おそらく浸水被害はあまり変わらないと思われるが、計算はし 		

てみたい(河川管理者)

- ・緊急性という観点から考えれば、まずは破堤が予測される箇所の堤防補強から実施していくべきだ。

越水しても破堤しないための堤防強化手法については、現在のところ、十分な検討ができていない。今後、コスト・工期・環境への影響を考慮して、妥当な方法を検討していく(河川管理者)

- ・河川管理者にお答え頂きたい。昭和28年9月1.8倍の時間雨量のピーク流量はいくらなのか。また、1.8倍の時間雨量のピーク流量は、流量で1.0倍の場合の何倍になるのか。

本日は資料を持ち合わせていないので、後日、あらためてお答えしたい(河川管理者)

一庫ダムの利水振替について

- ・一庫ダムの利水容量振替は、余野川ダムではなく、大阪府と大阪市への振替を追求して欲しい。どうすれば、大阪府や大阪市が振替を受け入れてくれるのか、きちんと分析をして、行政的に振替が可能かどうかを検討してほしい。特に、大阪市への振替によって、大規模な利水振替が可能だと考えている。

- ・農業用水の精査確認によって、一庫ダムの振替可能な容量が増大する可能性が出てくる。農業用水の精査確認状況について教えてほしい。 現在も引き続き調査検討を行っている(河川管理者)

今後のサブダムWGの位置付け、開催スケジュールについて

庶務より資料2「委員会における今後のスケジュール」を用いて、猪名川部会と余野川ダムサブWGの経緯と今後のスケジュールについて説明がなされた後、意見交換が行われた。

- ・地域別部会では、ダムについて、特にポイントを絞った議論をお願いしたい。地域別部会でも、ダムWGやサブWGと同じように議論をしてほしい。サブダムWGには、各ダムの意見書の素案を作成して欲しいと思っている。それをダムWGで再検討し、各ダム間で意見の調整を行い、委員会に提出すればいいのではないかと考えている。
- ・猪名川部会、ダムWG、サブダムWG、それぞれの目的を整理したうえで、開催した方がよい。
- ・今後、余野川ダムについては、猪名川部会でもサブWGでも議論をする。部会とサブWGで意見のキャッチボールしながら議論を進めていきたい。

2 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名より発言があった。主な意見は以下の通り。

傍)一庫ダムの利水容量振替は、大阪府営水道分の179万 m^3 を検討しているが、この他にも兵庫県や川西市分の450万 m^3 の振替も可能だ。委員会は、179万 m^3 の振替を実現するためにクリアすべき条件、さらに450万 m^3 の振替を実現するためにクリアすべき条件について、明確にしながら審議を進めて欲しい。

一庫ダムの利水振替を兵庫県や川西市にも広げてはどうかということだと思うが、その場合には水道管の拡大や浄水場の増強等の問題が出ると思われる。阪神水道についても、今後も精査確認をしていくが、大阪府営水道と同じようには行かないと思っている(河川管理者)

傍)余野川ダムは流域の7%しかカバーしておらず、アンバランスな降雨の場合には、余野川ダムに下流域への治水効果があるのかどうか、疑問に思っている。余野川ダムの下流への効果が本当に有効なのかどうか、審議をして欲しい。

以上

このお知らせは委員の皆様主に決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。